

文科省に聞く!

社会が注目しているのは 入試と人材育成目標の一貫性

「大学入試のあり方に関する検討会議」で提言された3原則を、社会変化の中でいかに適用すべきか。この課題意識が、中央教育審議会、教育未来創造会議など、国が行う高等教育に関する議論のベースにあります。例えば「文理横断による総合知」というテーマは、学際化が進む大学の教育・研究をいかに入試に反映するかという点で、3原則の①と③が関わります。「理工系女子」が注目されるのは、多様性確保にも関わる3原則の②の視点です【P.6 図表1】。

中教審では特に、DPとAPの一貫性、整合性が重視されています。卒業時の人材像を描いたうえで、そのスタートラインに立つ人材がどうか判定するものが入試であり、課す科目もその視点から設定すべきでしょう。APや入試のあり方に関する中教審の議論を整理した、教学マネジメント指針の「追補」を2022年度内に策定します【図表7】。

入試は入試、教育は教育、と分断されている状況では、そもそも求める学生を獲得できていないのかわかりません。入試は定員充足のためだけにあるのではなく、また、入試を変えるだけで学生が集まる時代でもありません。大学教育全体の設計の中で入試を捉え、入り口から出口までが一体の改革が必要です。

APとDPの関係性が薄い大学があるのは、高等教育において先に制度化されたのがAPだったため、後からつくったDPとつながらなくなっているからかもしれません。ただ、高校で培われた能力のうち何を重視し、入学後はどんな人材に育てようとしているのかという大学のAP、DPに高校教員や受験生が着目している現在、両ポリシーが不整合していることは好ましいと言えないでしょう。

入試戦略が教育の全体像に関わるものであるなら、入試担当だけで検討できるものではないはずです。学長や副学長がリーダーシップを取り、教学マネジメントの一環として、入試と教育を一体化させる必要があります。教学マネジメント、教育の内部質保証は、自学の教育目的が果たされていることを確認する営みです。したがって、入試は学生にとって大学教育の出発点であり、教学マネジメントの観点から捉えても重要なタイミングです。初手で間違えると、ゴールにたどり着けません。IR機能を発揮しての検証も必要です。

魅力ある存在になれば学生は集まる 正のスパイラルを描くための正念場

「大学入試が変われば高校は変わる」というのは、

「教学マネジメント」と「大学入試」の関係性、意識を これからの大学入試のあり方とは?

文部科学省
高等教育局 大学教育・入試課
大学入試室長

平野 博紀

ひらのひろき ●早稲田大学政治経済学部卒業、政策研究大学院大学修士課程修了。2002年文部科学省入省。国立大学法人支援課課長補佐、競技スポーツ課課長補佐、大学振興課大学改革推進室長等を経て、2022年より現職。



言うほど簡単なことではないでしょう。新たな取り組みに手を出すより、現行入試のハードルを下げたほうが目先の受験生は集まると考える方もいるかもしれませんが。しかし、自学が育てたい人を受け入れる努力、たとえ受ける人を選ぶ入試であったとしても、それを通じて「本学の教育はここに強みがある。だから、こういう力を磨いてきた人にこそ来てほしい」と伝える取り組みを、妥協せず続けてほしいと思います。特に総合型選抜は、大学から高校にそのメッセージを送り、相互理解や生徒とのマッチングを図りやすい入試方式です。

18歳人口の減少が続く中で、今が大学の将来を左右する正念場ではないでしょうか。中長期的に定員を充足させるためには社会から評価される必要があり、社会が大学を評価する観点において、教育より重んじられるものはそうないはずですが。

文科省では、他大学の模範となる先導的な入試の好事例集を作成しています(次ページ参照)。印象に残ったのは、自学に合う人材を採れる可能性を高めつつも、かかる時間やお金といったコストを下げるための数々の工夫です。その入試方式を安定的、継続的に行えなければ、高校や社会の信頼は得られないと考えた結果かもしれません。

高校に対しては、入試を通じた発信のみならず、直接的な交流も不可欠です。大学進学率が2割だった頃ならいざ知らず、6割近い今、高校現場のことをよく知らなければ、学生募集のマーケティングもできません。文科省としても対話を促していきますが、ぜひ、各大学が高校と日常的に交流する草の根ネットワークを築いてほしいと思います。

【図表7】「教学マネジメント指針」に追補される項目

追補「入学者受け入れの方針」に基づく大学入学者選抜の実施

- ▶ 入学段階で身に付けていることが求められる資質・能力等や、評価・判定の方法・基準について、「入学者受け入れの方針」に具体的に示す
- ▶ 入学者選抜が求める学生を適切に見いだすものとなっていたか、点検・評価を実施し、その結果を踏まえてAP等の見直しを実施

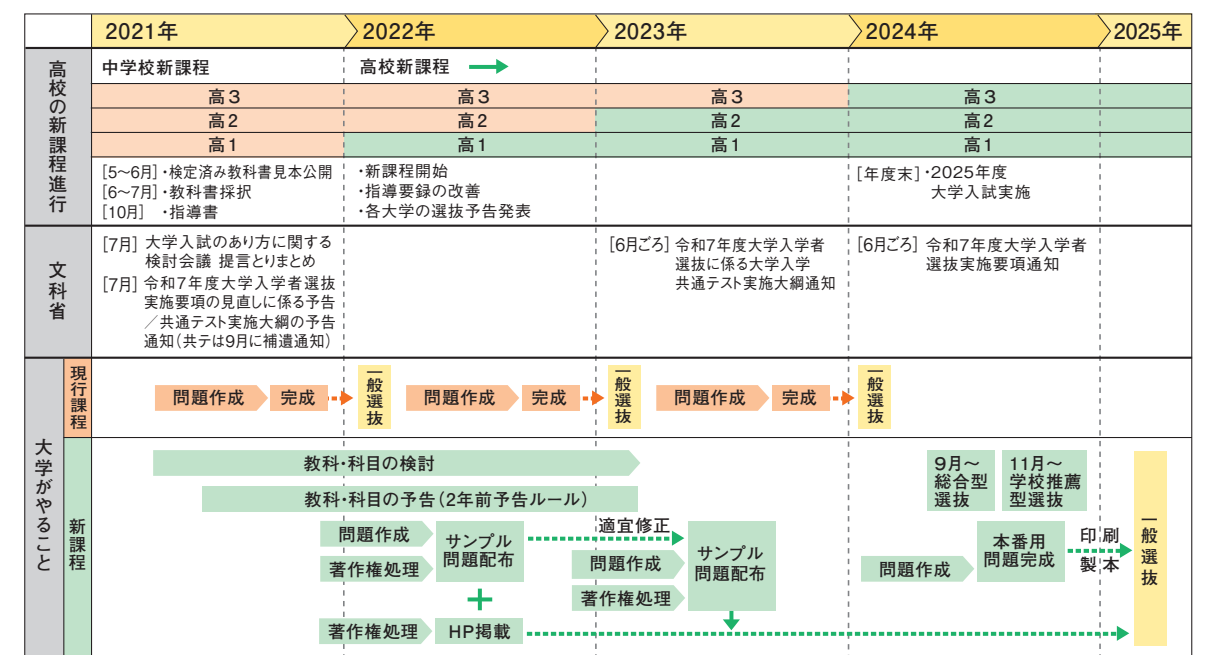
*中教審大学分科会(第171回)資料より

【図表5】令和7年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告(概要)まとめ

項目	見直しの内容
基本方針	▶ 「大学入試のあり方に関する検討会議」(提言)において整理された大学入学者選抜に求められる3原則を反映 ①当該大学での学修・卒業に必要な能力・適性等の判定 ②受験機会・選抜方法における公平性・公正性の確保 ③高等学校教育と大学教育を接続する教育の一環としての実施 ▶ 多様な背景を持った学生の受入れ配慮対象の例示として障害の有無、居住地域を追加
入試方法	▶ 一般選抜とそれ以外という整理を改め、入試方法を「一般選抜」「総合型選抜」「学校推薦型選抜」に再整理 ▶ 入学者の多様性を確保する観点から、入学定員の一部について、以下のような者を対象として選抜を工夫 ●専門学科・総合学科卒業生 ●帰国生徒、社会人 ●家庭環境、居住地域、国籍、性別等の要因により進学機会の確保に困難がある者、その他の者(理工系分野における女子等) ※この場合は入学志願者の努力のプロセス、意欲、目的意識等を重視し、評価・判定
学力検査等	▶ 「自らの考えを論理的・創造的に形成する思考・判断の能力」や「思考・判断した過程や結果を的確に、更には効果的に表現する能力」の評価を充実させるため、各大学のAPに基づき、可能な範囲で記述式の検査方法を取り入れることが望ましい ▶ 外国語におけるコミュニケーション能力を適切に評価・判定する観点から、資格・検定試験等の活用を従来どおり規定 ▶ 家庭環境や居住地域により、資格・検定試験等を受検することの負担が大きい入学志願者への配慮要請 ▶ 資格・検定試験等の結果を利用しない募集区分の設定 ※個別学力検査の成績と資格・検定試験等の選択的利用等 ▶ (令和7年度共通テストより)「簿記・会計」「情報関係基礎」が廃止されることに伴い専門高校生の進学機会の確保への対応として、資格・検定試験等の活用を要請
障害者への合理的配慮	▶ 障害のある入学志願者への合理的配慮の充実を図るため、以下のことを要請 ●障害のある入学志願者一人一人の個別のニーズを踏まえた建設的対話を行うこと ●相談窓口や支援担当部署等を設置するなど事前相談体制の構築・充実に努めること
調査書の見直し	▶ 簡素化された指導要録の参考様式に合わせて、調査書様式の簡素化等を行う。枚数は表裏の両面1枚とする

*文部科学省資料を基に編集部にて作成。色を付けた文言はポイント(編集部にて加工)

【図表6】新課程入試に向けたスケジュール



新課程入試への対応

公平性、多様性の確保を
念頭に入試の設計を

新課程入試を設計するにあたり、現時点で参照すべき文科省からの発信が、2021年発表の予告だ【図表5】。2022年度までに済ませた教科・科目の予告に加え、2023年半ばには、サンプル問題等の形で、自学が問う力を社会に知らせたい【図表6】。基本方針には、「あり方検討会議」で出された3原則が入り、多様性、公平性の観点から、受験生の障がいの有無、居住地域にも配慮すべき旨が追記された。入試方法でも、定員の一部に「専門学科・総合学科卒業生」枠、「帰国生徒、社会人」枠のほか、多様性を確保する独自枠の設置が位置づけられ、具体例として「理工系女子」枠を挙げている。学力検査等の項目では、個別学力検査に記述式問題を含めるよう要請。従来同様、外部英語検定の活用を推奨する一方、資格・検定試験等を受けづらい環境、地域にある受験生への配慮も求めている。調査書は簡素化されるため、主体性等の評価を行う際は、大学独自の推薦書フォーマット作成やその他の方法も視野に入れる必要がある。

文科省「好事例集」選定事例(抜粋) 2021年度入試における意欲的な取り組みを集めた事例集から、6大学分の事例を抜粋してまとめた。

大学	熊本大学	長崎大学	島根大学	奈良女子大学	宮城大学	北海道大学
<p>入学者選抜概要</p> <p>※令和3年度入試・実施概要</p>	<p>「肥後時修館」</p> <ul style="list-style-type: none"> ●熊本県内の高校生を対象としたグローバルリーダー育成塾「熊本大学肥後時修館」を令和元年度に開校し、グローバル教育をはじめ数理教育等の高大接続教育を実施。 ●具体的には、令和3年度に以下の内容を半年間実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語による特別授業、留学生との特別課外活動 ・数学の証明問題等を活用した課題解決やコミュニケーション時に必要な思考法を養う授業 ●県内の高校1～2年生を対象に、各テーマ10名程度を募集。 	<p>「一般選抜」</p> <p>選抜区分：一般選抜(前期日程)</p> <p>対象学部：全ての学部</p> <p>募集人員：1,038人(学部全体の約63%)</p> <p>入学者数：1,101人(志願倍率約2.5倍)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前期日程の共通科目である英語・数学・理科(物理、化学、生物、地学)において、高度な記述式問題を導入。 	<p>「へるん入試」</p> <p>選抜区分：総合型選抜</p> <p>対象学部：法文学部、教育学部、総合理工学部、生物資源科学部</p> <p>募集人員：254人(学部全体の22%)</p> <p>入学者数：220人(志願倍率1.4倍)</p> <p>【選抜方法】●調査書、クローズアップシート(高校の活動で、最も力を入れて取り組んだものの振り返り等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読解・表現力試験：短い論理的文章から読み解いたことを、設問に応じて論理的に表現できるかを評価。 ●志望理由書を用いた面接：「学びのタネ」を記述した志望理由書を用い、知的好奇心・探究心などを評価。 	<p>「探究力入試「Q」」</p> <p>選抜区分：総合型選抜</p> <p>対象学部：全ての学部(文学部、理学部、生活環境学部)</p> <p>募集人員：各学部10～12人以内(全学部の約7%)</p> <p>入学者数：各学部5～9人(志願倍率約4.7倍)</p> <p>【選抜方法】●調査書、志望理由書、活動報告書、研究レポート、学習研究計画書、小論文等(学部・学科ごとに異なる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1次選考：提出書類により、総合的に判定。 ●第2次選考：指定図書等に関する小論文、口述試験(文)、提示された生物実験マニュアルに従った実験の実施及びレポート作成(理)、科学的な内容の文書(英語を含む場合有)、実験データ等を読み、小論文作成の上プレゼンテーション及び質疑応答(生活環境)等。 	<p>「総合型選抜」</p> <p>選抜区分：総合型選抜</p> <p>対象学群：看護学部、事業構想学部、食産業学部</p> <p>募集人員：48人(学部全体の約11%)</p> <p>入学者数：65人(志願倍率約4.1倍)</p> <p>【選抜方法】●第1次選考：講師によるレクチャー①の受講後、レポート(設問形式)を作成。レポートを評価した成績、自己申告書等の出願書類の内容を総合的に判定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第2次選考：1日目は、講師によるレクチャー②の受講後、少人数のグループで議論。その後振り返りレポートを作成。2日目は、面接。レクチャー②、グループワーク、振り返りレポート、面接を評価した成績、自己申告書、調査書等の出願書類の内容を総合的に判定。 	<p>「総合型選抜」</p> <p>選抜区分：総合型選抜</p> <p>対象学部：医学部(医学科)、水産学部</p> <p>募集人員：25人(学部等全体の約9%)</p> <p>入学者数：15人(志願倍率2.4倍)</p> <p>【選抜方法】●第1次選考：調査書、コンピテンシー評価(高校教員による多段階評価)等により選考を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第2次選考：第1次選考に合格した者に対して、面接を行う(医学部医学科ではあわせて課題論文を課す)。ただし、令和3年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点が、条件を満たさなければ最終合格の対象とならない。
<p>制度設計のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●令和3年度選抜では、修了者のうち、実際に本学の総合型選抜(グローバルリーダーコース入試)を経て入学した者がいる等、高大接続教育を実践する取組として機能。 ●対面授業のほかオンラインを活用した遠隔教育も実施。受講に関する利便性が高く、より多くの受講者にグローバルリーダーの育成を目指した教育プログラムを実施することで、県内の人材育成に貢献。 ●入学前の高校生に対して大学での教育を提供することで、より深い学びを体験してもらい、高校教育と大学教育間のギャップを解消。 	<ul style="list-style-type: none"> ●作問研究として、令和元年11月に第1回モニターテスト(長崎県高等学校進学指導研究協議会理事校の現3年生(当時)の長崎大学レベル受験層を対象)および令和2年5月に第2回のモニターテスト(予備校の協力を得て、本学の医・歯・薬学部の受験層を対象)を実施し、目標設定した正答率と実際の平均点やモニターテスト実施校からのコメントを踏まえ、今後の設問の工夫・改善点を報告書としてとりまとめ。 ●また、令和2年6月に、高度な記述式問題のサンプル問題を大学ホームページに公表。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「知識」に偏重した選抜ではなく、「学びのタネ」(知的好奇心・探究心等)をキーワードに、高校までに育んだ探究心や将来の学びの可能性を重視。 ●中国地方5県の教育委員会・高校等と高大接続・入試改革に関して意見交換し、その方向性に基づき制度設計。 ●①出願前教育(Web面談等)、②入学前教育(各学部の事前課題、入学前セミナー等)、③入学後(フレッシュゼミナール等)の三つのステップで、入試を通して主体的に学ぼうとする生徒・学生の意志と意欲を醸成する流れを構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高校教育で近年盛んになった「探究」を包含しつつ、高校時代の探究の“成果”だけではなく、大学入学後に重要となる探究「力」をも評価しようとしており、そもそも大学が探究の場であることを強調し、大学生が教員と同じく「探究する者」であるというメッセージを重視。 ●専用ホームページにおいて、高校2年生に向けて課題テーマ・図書や作品制作課題等を提示し、各自の高校時代の学びや探究的な問いの継続性を重視。 ●選抜単位によっては、志願者の探究テーマに関する評価書の作成を第3者に求めるなど、多面的で客観的な評価のための工夫も導入。 ●全選抜単位で入学前教育を実施。 ●一部の選抜単位においては、フォローアップするためのゼミ科目を入学後に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●募集人員全体の約1割を「総合型選抜」の枠としている。 ●高校等での、総合的な学習(探究)の時間や各教科等での問題解決型の活動が発展的に繰り返される探究学習、互いの考えを伝え合い自身の考えを発展させる等他者と協議して課題を解決する学習、自ら得た情報を分析・評価してまとめ表現する学習等の成果を重視。 ●作題体制の強化やループリクスの精緻化、試験実施マニュアルの作成等により多くの教職員が運営に携われる仕組みを整えるなど、運営面の負担の改善を進めている。 ●高校等や志願者への丁寧な説明や入試ガイド・説明動画の作成により高校等や志願者に大学のメッセージを理解していただくとともに、試験日を可能な限り日曜日や土曜日の午後からの開始とし、志願者の精神的負担、物理的負担を軽減するよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学や社会での新しい価値の創造を目指し、新しい時代を生き抜く養育と、本学で学びたいという強い意志を持つ学生を募集。 ●高校教員が評価することにより、調査書からは読み取れない、本学の学部・学科等が求める能力や資質等について、選考に利用。 ●高校における特別な実績や活動ではなく、多様な活動の中でどのような行動をとっていたのか、どのような成長があったのかに焦点。 ●高校から提出された各評価の根拠資料を確認し、妥当性が認められない場合は、評価点を補正。 ●コンピテンシー評価は、一般選抜に比べて高校側に評価の負担がかかることから、継続して評価者用マニュアルの改善を図っていく予定。
<p>実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本学の大学教育統括管理運営機構教員及び関係事務部が、募集要項作成及び県内高校への告知、書類審査、講義資料等準備及び講義当日の対応、修了証明書の作成及び交付等の業務を実施。 ●令和3年度はLMSを使用し、オンデマンド形式(一部オンライン形式)で2テーマを開講。 	<ul style="list-style-type: none"> ●本学と長崎県高等学校進学指導研究協議会及び長崎県教育委員会の三者が連携した「高度な記述式問題に関する研究を行う検討会」を設置し、共同で作問研究を実施。教科・科目ごとに、本学教員2名、高校教員1～2名及びアドバイザーとして県教委又は高校教頭1名の体制。 	<ul style="list-style-type: none"> ●大学教育センター長をはじめとした、16名からなる「へるん入試委員会」の下に、作業部会や各WGを設置。 ●読解・表現力試験に監督者39名、面接・実技試験に監督者152名、調査書・クローズアップシート評価に評価者8名で実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各学部において学部長を委員長とする入学試験実施委員会を設置し、出題・採点委員をはじめ各委員の選出を行い、組織的に実施。 ●第1次選考は、入試課が整理した出願書類を速やかに各選抜単位の出題・採点委員に引き渡す。第2次選考は原則同日に実施し、試験当日は全学共通の試験実施本部を設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に根差した公立大学として、初等中等教育と高等教育の教育上の連携を図り、相互の教育の質を高めていくため、平成31年に高大連携推進室を設置。 ●探究型学習の指導支援等を展開。大学と生徒のマッチングの機会ともなっている。 ●総合型選抜の入学者に入学前教育プログラムを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピテンシー評価実施のため、書類選考や筆記試験、面接等を実施する募集単位とは別に、コンピテンシー評価のシステム設計、選考結果の分析、入学後の追跡調査などを行うアドミッションオフィサー2名を配置。 ●高校教員は、本学のシステムにコンピテンシー評価を登録。
<p>成果の検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●受講者アンケートでは、多数の肯定的意見が寄せられている。 ●既に総合型選抜における多面的評価の一部として活用しているが、今後の追跡調査等を踏まえ、開講科目について本学入学後の単位化を目指す等の取組を推進する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ●作問研究により、受験生の能力や理解度が測れるバランスのよい作問が期待できる。また、高校における学習指導のノウハウを採点基準や採点方法の参考とすることができる。 ●年度末に科目ごとに振り返りと総括。また、高校との入試連絡会で各高校から「入学者選抜に関する意見と要望」をいただき、各作題班にフィードバック。 ●令和3年度選抜に対しては、「全体的に良問」との肯定的な意見、「どの問題が高度な入試問題であったのかわからなかった」という意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●他の入試で入学した学生と比較して、どうしても進学したい大学だったと選択している割合、教育内容の特色を理解している割合が高い。 ●合格者の担任(高校教員)対象の調査回答者の99%が「生徒の変容や成長が感じられたか」について肯定的に回答した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●令和3年度に入学した1期生については、他の選抜方式で同時入学した学生と比較が可能なようにデータ化するなど、今後の検証に備えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各学類のリードオフマン^{*1}として活躍する学生がでている。 ●「総合型選抜(旧AO入試)」で入学した複数の学生が、学会・コンベンション・コンテストにおいて賞を受賞。 ●1年生を対象とした検査において、他選抜区分で入学した学生と比較し、レジリエンス、コラボレーション、リーダーシップについて、より高い特性があることを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ●先行実施している医学部医学科及び水産学部では追跡調査サンプル数としては少ないため、令和4年度入学者から追跡調査を実施する予定。

* 文部科学省「令和3年度大学入学者選抜における好事例集」(2022年8月)より編集部に抜粋、まとめ

未来の入試の形を占う 先導的な実践例に注目

「あり方会議」では、今後、他大学の模範となる入試や高大接続の取り組みについて、好事例を認定・公表することが提言された。文部科学省は、その試行として2022年8月、「令和3年度大学入学者選抜における好事例集」を発行。申請のあった84件から18件を選定、公表した。各事例は、「制度設計のポイント」「実施体制」など共通の7項目で整理され、特徴を比較しやすくなっている。なお、同会議では、優れた入試改革事例に対するインセンティブの付与も提言されたが、本好事例は直接の対象ではなく、私立大学については改革総合支援事業等で評価、支援が行われる。

選定結果を見ると、単に手の込んだ入試ではなく、「高校の学びとの接続が図られているか」「受験生に高校でどのような学習をすればよいのか、わかりやすい説明がなされているか」「求める能力を測る入試であるかを検証できているか」「無理なく継続できるか」といった点が特に評価されたようだ。

高校との連携については、「授業機会の提供」や「探究活動の評価」以外に、高校教員を入試に巻き込む事例も取り上げられている。

北海道大学は高校での日常を評価しようと、基準を高校に公開したうえで、評価の一部を高校に委任。島根大学や長崎大学は高校教員と意見交換や作問研究を行い、実施方法や出題内容を検討している。

宮城大学では、探究学習の成果を評価する総合型選抜の実施に加え、高大連携推進室を設置し、高校に対して探究学習支援を積極的に行うほか、高校教員向けの研修も実施している(P.20)。

入試の継続をめざした負担感の軽減については、上の表にはないが、藤田医科大学の採点制度が高く評価されたという。英語と数学で大問ごとにマーク式と記述式に分けて出題し、マーク式の得点が基準を超えた答案のみ、記述式の採点を行う工夫をしている。また、熊本大学は、上の表の取り組みとは別に、*2国立六大学連携コンソーシアムが開発した「ペーパーインタビュール」を導入。これは面接で得たい情報を書かせる筆記試験で、面接に比べて教職員の拘束時間を減らす効果がある。

本試行版は各大学から「非常に参考になった」との声が寄せられるなど、好評を得ているという。2023年発行予定の事例集にも期待がかかる。

*2 千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学で構成。2013年設立

*1 率先して先頭に立つ者の意

私立大学の新课程入試の教科別出題範囲予告発表例

2025年度入試において、対応が分かる教科をピックアップ。今後の入試の設計や公表の参考に2022年12月までに公表済みの主な私立大学の

動向を公表日順にまとめた。

×：公表情報の中で課さないことが読み取れるもの 空欄：公表情報からは課すか課さないか判断しなかったもの
いずれも原則的に2022年12月までに公表された主な大学の公表情報を弊社で確認、解釈のうえ、表にまとめたもの(スペースの都合上全公表内容は網羅していません)。
弊社確認段階から変更になっている可能性もあるため、最新かつ正確な情報は、各大学の最新の公表情報をご確認ください

公表日	都道府県	大学	学部：選抜方式	個別試験				その他出題範囲、備考
				数学A 「数学と人間の活動」を含むか否か	数学B 数列	統計的な推測	数学C ベクトル	
5月25日	東京	早稲田大学	人間科学：一般選抜(国英型) 人間科学：一般選抜(数英型)	○	○	○	○	「数学選抜方式」「共通テスト利用入試」の入試科目は、決定し次第、改めて公表
6月1日	和歌山	和歌山信愛大学	公募前・後期、一般I期 一般II期	×	○	○	○	数学I・数学Aは図形・確率 数学I・数学II
9月5日	東京	北里大学	獣医(獣医)：一般選抜(前・後期) 薬：一般選抜、学校推薦型(公募制) 獣医(動物資源科学、生物環境科学)、海洋生命科学：一般選抜 理：一般選抜	○	○	○	○	数学I・数学II ※数学Cは複素数平面を除く 数学I(必須)、数学II(必須)、数学III・数学B・Cから1題選択
9月21日	北海道	北海学園大学	工(建築)：一般選抜 工(社会環境工、生働工)：一般選抜 工(電子情報工)	○	○	○	○	数学I(必須)、数学II(必須)、数学III・数学B・Cから1題選択 数学I・数学II(必須)、数学III・数学B・Cから1題選択 数学I・数学II・数学III(必須)、数学A・数学B・Cから1題選択
10月5日	栃木	自治医科大学	看護：一般選抜	×				数学I・数学A(場合の数と確率、図形の性質)
10月31日	石川	金沢星稜大学	経済、人間科学：一般選抜	○				数学I、数学A(2項目選択)
10月31日	北海道	北海道情報大学	一般選抜 1期	○	選択解答			数学I、数学II
10月31日	東京	慶應義塾大学	経済：一般選抜A方式	○	○		○	数学I、数学II、数学A、数学B、数学C 数学IIの「微分・積分の考え」においては一般の多項式を扱う
			商：一般選抜A方式	×	○		○	数学I、数学II、数学A、数学B、数学C
			医：一般選抜	×	○	○	○	数学I、数学II、数学III、数学A、数学B、数学C
			理工：一般選抜	○	○		○	数学I、数学II、数学III、数学A、数学B、数学C
			薬：一般選抜	○	○	○	○	数学Aは「数学と人間の活動」のうち「整数の性質」に関する部分を出題範囲とする
			総合政策：一般選抜	○	○	○	○	数学I、数学II、数学A、数学B
環境情報：一般選抜	○	○	○	○	数学I、数学II、数学III、数学A、数学B、数学C			
看護医療：一般選抜	×	○	○	○	○	数学I、数学II、数学A、数学B、数学C		
11月1日	大阪	大阪樟蔭女子大学	総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜	○				数学I
12月12日	千葉	千葉商科大学	一般選抜	×				数学I・数学Aは「図形の性質」「場合の数と確率」
12月12日	東京	早稲田大学	商、社会科学：一般選抜 教育、基幹理工、創造理工、先進理工、人間科学：一般選抜	○	○	○	○	2025年度入試のみ新教育課程と旧教育課程の共通範囲から出題。2026年度以降は新教育課程から出題

公表日	都道府県	大学	学部：選抜方式	共通テスト	個別試験		備考
				「地理総合、歴史総合、公共」から2科目選択	共通テスト準拠型	折衷型	
5月25日	東京	早稲田大学	人間科学：一般選抜(国英型) 人間科学：一般選抜(数英型)	×			
7月1日	東京	学習院大学	国際社会科学 上記以外	×	○		
7月11日	東京	昭和女子大学			○		
8月1日	東京	聖心女子大学	一般選抜		○		
9月5日	東京	北里大学		○			
9月21日	北海道	北海学園大学	一般選抜	○	○		
10月14日	三重	三重短期大学		○			
10月31日	石川	金沢星稜大学		○			
10月31日	東京	慶應義塾大学	文、経済(B方式)、法：一般選抜		○		「世界史」と「日本史」のいずれかを選択する 「世界史」：歴史総合、世界史探究 「日本史」：歴史総合、日本史探究 旧教育課程履修者を考慮するもの、特別な経過措置はとらない
			商：一般選抜			○	「世界史」「日本史」「地理」のいずれかを選択する 「世界史」：世界史探究 「日本史」：日本史探究 「地理」：地理探究
12月1日	神奈川	鎌倉女子大学	一般選抜	○			
12月9日	北海道	酪農学園大学	一般選抜	○			
12月12日	千葉	千葉商科大学	一般選抜	○	○		
12月12日	東京	早稲田大学	一般選抜				○ 本学が作題する各教科等の出題範囲は全学部で共通とする
12月15日	北海道	札幌学院大学	一般選抜	○		○	「歴史総合(日本史関連部分)」と「日本史探究」から出題
12月16日	新潟	新潟医療福祉大学	一般選抜	×		○	歴史総合(世界史)・世界史探究、歴史総合(日本史)・日本史探究、地理総合・地理探究

公表日	都道府県	大学	学部：選抜方式	共通テスト			個別試験			備考	
				課す	必須	選択	課す	必須	選択		
5月25日	東京	早稲田大学	人間科学：一般選抜(国英型) 人間科学：一般選抜(数英型)	○		○	×			「数学選抜方式」「共通テスト利用入試」の入試科目は、決定し次第、改めて公表	
6月1日	和歌山	和歌山信愛大学	共通I・II・III期(2教科型) 上記以外	○		○	×			数：「数学I、数学A」「数学II」「数学II、数学B、数学C」「情報I」から1科目	
7月1日	東京	学習院大学	文(英語英米文化、ドイツ語圏文化、フランス語圏文化)：一般選抜	○		○				個別試験のみ公表	
7月11日	東京	昭和女子大学					×			選抜区分に関係なく個別学力試験に「情報」は出題しない	
7月14日	奈良	奈良佐保短期大学					×				
8月1日	東京	聖心女子大学	一般選抜				×				
8月5日	東京	日本体育大学	一般選抜	○		○					
9月1日	東京	宝塚大学	東京メディア芸術	○		○					
9月5日	東京	北里大学	獣医(動物資源科学、生物環境科学)：共通テストプラス、共通テスト利用 上記以外	○		○	×				
9月21日	北海道	北海学園大学	一般選抜	○		○	×				
10月4日	東京	東京女子体育大学	一般選抜	○		○					
10月14日	三重	三重短期大学		○		○	×				
10月31日	石川	金沢星稜大学		○		○	×				
10月31日	北海道	北海道情報大学	医療情報(臨床工学専攻)：共通テスト利用入試	×							
			上記以外：共通テスト利用入試	○							2023年度中にサンプル問題を公表する予定
			経営情報(先端経営、システム情報)、医療情報(医療情報専攻)、情報メディア(情報メディア)：一般選抜1期 上記以外：一般選抜				○				
10月31日	東京	慶應義塾大学	総合政策、環境情報：一般選抜 上記以外：一般選抜				○			「数学」あるいは「情報および数学」あるいは「外国語」あるいは「外国語および数学」の4つの中から1つを選択する。(いずれも同一試験時間内に実施) ⇒「情報および数学」：情報I、情報II、数学I、数学II、数学A、数学B	
11月2日	京都	京都光華女子大学		○		○				「情報I」を高得点であった場合の採用科目に取り入れる	
12月1日	神奈川	鎌倉女子大学	家政(管理栄養)：一般選抜 上記以外	×			×				
12月1日	滋賀	滋賀短期大学	一般選抜	○		○					
12月1日	福岡	西日本工業大学	一般選抜	○		○	○				
12月9日	北海道	酪農学園大学	一般選抜	○		○	×				
12月12日	千葉	千葉商科大学	一般選抜	○		○	×				
12月12日	東京	早稲田大学	政治経済、国際教養、文化構想、文、スポーツ科学：一般選抜 上記以外	○		○	×				
12月13日	東京	東京純心大学		○		○	×				
12月15日	北海道	札幌学院大学	一般選抜	○		○	×				
12月16日	新潟	新潟医療福祉大学	共通テスト利用入試	○							
			一般選抜(前) 一般選抜(後)				○				

現行課程	新课程		
	共通テスト準拠型 共通テストの科目に準じる	折衷型	共通テスト非準拠型 「探究科目」「政治・経済」「倫理」単体で課す
世界史B	「歴史総合、世界史探究」	「世界史(歴史総合、世界史探究)」「歴史総合(世界史)、世界史探究」	「世界史探究」
日本史B	「歴史総合、日本史探究」	「日本史(歴史総合、日本史探究)」「歴史総合(日本史)、日本史探究」	「日本史探究」
地理B	「地理総合、地理探究」	「地理(地理総合、地理探究)」	「地理探究」
政治・経済	「公共、政治・経済」	「政治・経済(公共、政治・経済)」「公共(政治・経済)、政治・経済」	「政治・経済」
倫理	「公共、倫理」	「倫理(公共、倫理)」「公共(倫理)、倫理」	「倫理」
例	慶應義塾大学・文、経済、法 学習院大学 昭和女子大学 聖心女子大学 千葉商科大学	北海学園大学 札幌学院大学 新潟医療福祉大学	早稲田大学 慶應義塾大学・商

注目3教科への対応状況
最後に、新课程入試で対応が悩ましい3教科について触れる。A PやD Pとの整合性、高校での履修状況、そして併願関係への影響を考慮しての設計と公表(仕方、時期)も、志願者確保のうえでは重要な。今後の参考に、2022年12月までに公表した主な大学の例を日付順に並べてみた。

新课程では、**数学は、「ベクトル」**が数学Bから新設のCに移行。多くの文系生徒にとって入試の出題範囲から外れることになるが、慶應義塾大学経済学部や早稲田大学商・社会科学部などは、出題範囲に含めている。数学Bで必須化された「統計的な推測」については、現段階では、そのまま数学Bの出題範囲とする大学・学部の方がやが多い。

情報は、共通テストと個別試験での扱いが焦点。私大では共通テストの選択科目が中心だ。

地歴公民の注目は、新科目「歴史総合」だ。世界史/日本史探究いずれかと合わせて1科目とする「共通テスト準拠型」、範囲に含めるが、世界史関連部分しか出題しないと見られる「折衷型」、範囲に含めない「共通テスト非準拠型」があり、大学によって対応が異なる。